

令和6年度第3回小牧市環境審議会 議事録

日 時	令和6年11月21日(木) 午後3時00分～午後4時5分
場 所	小牧市役所 東庁舎5階 大会議室
出席者	<p><b>【委員】</b>(50音順)</p> <p>今枝 正           こまき環境市民会議会長  田上 昭典       小牧市小中学校校長会  馬場 容子       公募委員  松本 高幸       公募委員  宮脇 稔         愛知県地球温暖化防止活動推進員  ◎山本 敦       中部大学応用生物学部教授  ※ ◎会長</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>入江 慎介       市民生活部長  落合 健一       市民生活部次長  梅村 知成       環境対策課長兼ゼロカーボンシティ推進室長  鈴木 尚紀       ごみ政策課長兼ゼロカーボンシティ推進室主幹  宮下 美則       リサイクルプラザ所長  赤堀 真耶       環境政策係長兼空港対策係長兼ゼロカーボンシティ推進係長  若山 愛美       環境政策係主任兼空港対策係主任兼ゼロカーボンシティ推進係主任</p>
欠席者	<p>石川 英里       中部大学工学部教授  酒井 美代子     小牧市女性の会会長  吉本 三広       市内事業所推薦</p>
傍聴者	0名
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・資料1：第三次小牧市環境基本計画(改定版)(案)</li> <li>・資料2：令和6年度小牧市環境年次報告書(案)</li> <li>・資料3：小牧市環境都市宣言(案)</li> <li>・参考資料：令和6年度第2回小牧市環境審議会 意見及び対応</li> </ul>

## 主な内容

### 1 開会

### 2 議題

#### (1) 第三次小牧市環境基本計画（改定版）（案）について

- ・事務局より資料1及び参考資料について説明
- ・主な質疑、意見は以下のとおり

#### (山本会長)

例えば81ページを見ていただくと、目標達成に向けた施策があるが、素案では、最後に担当部署が記載されていたと思う。削除されたのはどのような理由か。

#### (事務局)

市では組織改正があると担当部署が変わることから、実際の施策は行っていくが、施策に紐づく細かい事業についてはアクションプランという形で、進捗管理をしていく予定であり、そちらには担当課を記載しようと考えているため、計画書自体への記載は削除をさせていただいたところである。

#### (山本会長)

この計画書は、一般市民も見ることができるのか。

#### (事務局)

計画書については、ホームページ等で公開をする。また、進捗管理についても、実績報告という形で担当課を記載したうえで、ホームページで公開させていただく予定である。

#### (今枝委員)

P48のプラスチックごみの削減について、前回の意見を踏まえ分かりやすく書いていただいた。この中で、『「マイクロプラスチック」と呼ばれる5mm未満の』と記載されているが、一般的には5mm「以下」と記載されていることが多い。マイクロプラスチックについて説明させていただくと、一次マイクロプラスチックと二次マイクロプラスチックに分けられ、一次には化粧品や洗顔料が含まれ、二次プラスチックは一般のプラスチックが紫外線により劣化したものと言われている。

有識者によって意見が分かれるところかもしれないが、「未満」よりも「以下」と書かれているものが圧倒的に多いため、一度確認をお願いしたい。

#### (山本会長)

いろいろな文献を見て、整合性がとれるような表記にしていきたい。

#### (事務局)

環境省の文献なども確認しながら、一番妥当な表現を検討していきたい。

#### (田上委員)

P47の将来イメージについて、図がクリアではないため、印刷・製本する際にはクリアになるかと思うが、確認をお願いしたい。

現在、小学5年生の国語の授業を担当しており、図やグラフ、表を効果的に使って、より詳細に上手く読み手に伝わるようにというような勉強をしている。この計画

書においても、達成目標など具体的な数値が明記されており、その前の文章で説明しながら伝えることができているため、楽しく学ぶことができそうな内容だと思った。

(事務局)

図の見やすさについては再度確認し、読みやすいものとなるよう努める。

(松本委員)

特に意見はない。立派な計画ができたと思う。これでパブリックコメントを実施していただければと思う。

(宮脇委員)

前回お願いした内容が、十分ここに反映されている。また、非常に見やすくなっていると思う。

(馬場委員)

だいぶ修正していただいた。新しいページも作っていただき、とても見やすく、良くなったと思う。

(事務局)

本日欠席されている吉本委員から事前に質問と感想を預かっているため、報告させていただきます。

まず質問の方から、「読みやすくわかりやすくまとめられていると思う。P17やP44等に記載されている再生可能エネルギーのほとんどが太陽光発電である。2010年頃から本格導入されて14年ほどになる。今後も導入拡大の予定だが、運営、維持管理面や廃棄面での問題や懸念、デメリットがあれば触れていただければと思う」というご質問をいただいた。

回答として、2012年に固定価格買取制度（FIT）が導入されて以降、太陽光発電は加速度的に増えている状況である。小牧市の再生可能エネルギーのポテンシャルのほとんどが太陽光発電となっていることから、太陽光発電による再エネを主力電源とするためには、廃棄問題は避けて通ることはできないと考えている。現在、国においてもパネルの適正な廃棄やリユース・リサイクルを促進するための取組を検討しており、本市においても国等の動向を注視しているところである。今後、世界や国で取扱いや方針が定まり次第、導入促進と合わせて、廃棄における取扱い等を含め、周知・啓発及び施策への展開を、今後作成するアクションプランの中で実施していきたいと考えている。

もう一点は感想として、「第4章では目標達成に向けた施策について記載されている。特にP72の生物多様性の保全や、P74のみどり・水辺の保全について、新規の施策について多くの項目が提言されている。継続施策と合わせて豊かな自然環境の維持保全に向けて効果的で具体的に実施が進むことを期待している」という感想いただいている。

吉本委員からいただいた意見は以上である。

最後に、本日いただいた質問を受けて計画を変更する場合は、その変更の承認については、会長に一任させていただきたいと考えている。

## (2) 令和6年度小牧市環境年次報告書(案)について

- ・事務局より資料2について説明
- ・主な質疑、意見は以下のとおり

### (山本会長)

P15のごみ排出量と人口の表について、下に年度が記載されているが、令和にはR書いてあるのに対し、29・30年度にはHが抜けている。

次にP30の「LED」について、全角と半角が混在しているため、整理をしていただきたい。

P37の「ボトル to ボトル」についても表記を統一してもらえればと思う。

### (田上委員)

P5、P6の大気に係るグラフについて、愛知県の折れ線グラフが途中で消えているが、これはデータがないということか。

### (事務局)

例えば光化学オキシダントをみると、途中から愛知県のデータがないということかと思う。今手元にデータはないが、県も継続的に測定をしており、おそらく重なっているだけだと思うため、データを確認して分かるような形に修正させていただく。

### (山本会長)

年次報告書については、後日メールで事務局に伝えれば、反映はしてもらえるのか。

### (事務局)

メール等でご連絡いただいても問題ない。あまり時間がなく申し訳ないが、今月中にお願いしたい。

### (事務局)

こちらについても吉本委員から事前に質問と感想を預かっているため、報告させていただきます。

「報告書のP21の温室効果ガス排出量について、2013年比で19.1%の削減を2030年の目標としている。2016年は2,205千t-CO<sub>2</sub>だが、以降の実績値は報告書P28下段の表の数値となっている。環境基本計画のP16、P38とも関連するが、報告書P31下段の評価で触れているように、コロナ禍ではやや減少したものの、経済活動再開後は増加傾向とある。今後の達成実現の見通しはどうか」というご質問をいただいている。

こちらの回答だが、年次報告書に記載している温室効果ガス排出量の削減目標については、現行計画の目標で19.1%としているが、第三次環境基本計画(改定版)では、2030年度の目標を46%としている。令和5年度の実績値を基準値と比較すると、約7.3%の削減となっており、目標達成にはまだまだ厳しいのが現状だが、これまで以上に省エネルギー化を推進するとともに、本市は工業都市であり、産業部門からの排出量が多いことから、事業者に対する働きかけを強化し、事業者が行う取組を推進することを通じて、削減目標の達成に向けて努めて参りたいと考えている。

合わせて感想もいただいているので、紹介をさせていただく。「報告書P39では、自然環境の保全と創出について事例が紹介されている。こうした小牧市と市民が協働

して行う地道で継続的な取組に敬意を表するとともに、活動の大切さを感じ、興味深く拝読した。特に「小牧の巨木」で調査を実施した自然環境観察人の活動に感心した」という感想をいただいた。

### 3 その他

#### (1) 環境都市宣言について

- ・事務局より資料3について説明
- ・主な質疑、意見は以下のとおり

#### (山本会長)

⑤について、「資源循環を推進し、環境と産業が調和するまち」と「カーボンニュートラルを実現し、持続可能なまち」は広義で言えば同じ意味ではないか。そう考えると1つ目も同じ意味のように思える。

#### (事務局)

資源循環は産業とつながる部分があり、小牧市はもともと産業が盛んなまちでもあるため、そういった意味で環境と産業という言葉を使わせていただいている。カーボンニュートラルに続くところについては、カーボンニュートラルが実現した後はどういったまちになるかということ考えると、将来的にも生活できるようにという意味で持続可能としている。1つ目の良好な環境を保全というのは、自然共生社会の実現を指し、生物多様性など環境保全することによって、自然と共生につながるという意味がある。

#### (田上委員)

④の「私たちは」から始まる文章が一文なので、二文にすると読みやすくなると思った。

#### (事務局)

環境都市宣言については、今後パブリックコメントを実施するため、そちらの意見や今日いただいた意見を参考にさせていただきながら最終的なものにしたいと思っている。

#### (今枝委員)

③は「将来の世代」となっているが、④は「未来のこどもたち」となっている。一緒である必要はないが、あえて分けているのか意図はと思った。

また、⑤に「環境と産業の調和」とあるが、昔は「共生」と言っていた。「環境と産業の調和」というのはどう捉えたらいいのかと思った。

#### (山本会長)

いろいろな人からいろいろな意見をいただいた中で作成されたものだと思うので、原案を尊重したいと思います。

以上